

荒川流域エコネット地域づくり推進協議会
令和5年度 第1回 荒川流域エリア・ワーキング

議 事 要 旨

■ 日 時：令和5年8月2日（水）13:30～15:00

■ 場 所：荒川上流河川事務所 会議室・Web会議（Zoom）形式併用

■ 議事要旨

1. これまでの経緯の確認

- ・アクションプラン策定までの経緯と概要、昨年度実施の前回協議会及びWGの議事要旨について確認を行った。

2. 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R5予定等）について

- ・令和5年度 協議会活動計画（案）について確認を行った。
- ・取り組みの進め方等について意見交換を行った。

■ 配付資料

- ・議事次第／出席者名簿／WG規約・委員名簿
- ・資料1 これまでの経緯
- ・資料2 アクションプランの取り組み推進について（令和5年度活動計画案）

■出席者

構成	団 体 名 等	氏 名
学 識 経 験 者	埼玉大学 名誉教授	浅枝 隆 ◎
	(公財)埼玉県公園緑地協会 埼玉県こども動物自然公園 副園長	高木 嘉彦
	那須どうぶつ王国 教育・普及啓発プロデューサー	日橋 一昭
団 市 体 民	特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク 理事	川島 秀男
関 係 自 治 体	鴻巣市 環境経済部 環境課 副参事	小林 弘樹
	桶川市 環境経済部 環境対策推進課 主事	肥土 慎之
	北本市 市民経済部 環境課 主査	渡部 健則
	吉見町 環境課 係長	笛木 学
行 政 関 係 機 関	埼玉県 環境部 みどり自然課 主幹	荒井 理恵
	埼玉県 農林部 農村整備課 主任	川鍋 将司
	埼玉県 県土整備部 河川環境課 主任	粕谷 文昭
	埼玉県 環境部 環境科学国際センター 研究推進室 生物多様性保全担当課長	伊東 奈緒美
	関東地方整備局 荒川上流河川事務所	高橋 靖
※	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携課長補佐	池上 清子
	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係長	高玉 郁子
	関東地方整備局 河川部 河川環境課 地域連携係 技官	渡邊 菜月
事 務 局	荒川上流河川事務所 河川環境課長	笠井 英志
	荒川上流河川事務所 河川環境課 専門官	田代 拓
	荒川上流河川事務所 河川環境課 技官	松本 堯大

◎座長 / ※オブザーバー

学識経験者・民間団体 氏名五十音順

1. これまでの経緯の確認

○ 事務局

【資料1】 これまでの経緯について説明

→意見なし。

2 「荒川流域エリア・アクションプラン」の推進（R5予定等）について

（1）生物の生息場環境保全に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料2】 アクションプランの取り組み推進について（令和5年度活動計画案）のうち、「生物の生息環境保全に関するプランの本年度計画」について説明。

○ 浅枝座長

各アクションプランの取り組み方針について、今年度の対応案を示しているが、他に課題解決に向けたアイデア等があれば意見をいただきたい。

○ 事務局

以前、浅枝座長より高度な技術の活用についてご提案いただいたところである。委員の皆様からもご提案いただいたうえ、今後、エコネット地域づくり推進に寄与する具体的な対策を検討していきたいと考えている。

○ 高木委員

エコネット学習の推進で小学校へポスター掲示をお願いするとあるが、担当者間でやりとりをしながら進めるのではなく、直接送ってしまってもよい気がする。

動物園でも夏のイベントで小学生の学習支援等を行っているが、その際はポスターなどを教育委員会に送り、学校で配布いただくようお願いしている。協力的な学校は積極的に学生へ配布してくれるため、推進協議会でもこのような取り組みを行うのはどうか。

○ 事務局

ご紹介いただいた取り組み方法の通り、各市町の教育委員会の担当の方にご協力いただき、校長会でプレゼンテーションする機会をいただいたところである。小学校に学習資料を配布する段取りを具体的に進めているため、引き続きご助力いただきたいと考えている。

○ 高木委員

シンボルのコウノトリが飼育されているコウノトリ野生復帰センターは、学習支援

のような授業をする場所に向いているため、鴻巣市さんの了解を得て活用することはできないか。

○ 鴻巣市

コウノトリ野生復帰センターは市民限定の施設ではないため、幅広く活用していただくのは有効だと思う。以前、吉見町さんからご意見いただいた施設見学等に関しても、今後は市内の小学校に限らず、近隣市町からも気兼ねなく参加できるような方法について、ホームページ等での案内を含めた検討を進めているため、是非みなさんにご利用いただきたい。

○ 荒川流域ネットワーク

鴻巣市の一部の農家の方と協力し、コウノトリの餌場を育む意味で、無農薬・無化学肥料の田んぼを管理している。そこで定期的に生きもの調査を行い、ドジョウや、特にヌマガエルを多く観測している。だが、付近の田んぼは生きものが少なく、8月に入ると田んぼに水がなく乾いた状態になっている。

コウノトリが自然界でどのように生活しているのか個人的に興味があるため、毎朝3時に起きて渡良瀬遊水地や利根川などへ観察に行っている。今朝も4～6羽確認してきたが、鴻巣市を始めとした荒川流域方面にはコウノトリが向かわない状況である。一カ月前には鴻巣市にもコウノトリが3羽飛来したが、やはり田んぼに水がないところが多いためか、その後は毎朝毎夕確認に出かけているが見つからない。コウノトリは水のある所や、暑い時期には比較的涼しい場所を選んで生活していると考えられるため、生きものを増やすにはどうすればよいかをみんなで考え、荒川流域にもコウノトリが飛来するような環境をつくっていけるとよいのではないか。

○ 吉見町

この機会に環境科学国際センターさんに確認したいことがある。吉見町では「夏休みの自由研究（環境）をおたすけします！」という企画を始めた。町内の子ども達から、生きものや地球温暖化、ゴミ問題等について知りたい場合は、役場へ来てもらい、職員の都合がつく範囲ではあるがアドバイスするというものである。この取り組みは今年度PRを始めたばかりのため2件しか応募がないが、どちらも生きものに関する相談であった。生きものに関しては、子どもが持つ深い興味には応えることが難しい状況である。そういった場合、環境科学国際センターさんを紹介して電話相談していただくといった案内をすることが可能か確認したい。

○ 環境科学国際センター

一日だけではあるが、施設の夏休み企画として、自由研究について研究員に直接相談できる場を設けている。詳細についてはホームページで案内をしているが、事前予約不要で実施している。

電話での常時相談受け付けについては、研究員が常に在席していないことや、子ど

もが持つ多様な分野の疑問に対して十分な回答をすることが難しいことから、対応していない状況である。

ただ、事前に情報をまとめて連絡をいただければ、少し時間をいただいて回答するといったことが可能である場合がある。また、施設には多様な疑問を解決するために役立つ資料を多く取り揃えているため、調べものをするときに足を運んでいただいたり、年数回になるが研究員に相談する機会があることをご案内していただきたい。

○ 浅枝座長

確かに生きもの場合は種類が多く、分野が少し変わっただけで対応できないことがある。環境科学国際センターの職員に直接相談できる機会などをうまく活かしていただくとよいと思う。

○ 高木委員

こども動物自然公園でも子どもたちの夏休みの宿題の手伝いなどを 20 年くらい続けている。確かに生きものは幅広いため、子ども達の興味に対して僕らの知識が追いつくかといった懸念もあるが、飼育に関わる職員が 50 人以上いるため、例えば昆虫の専門知識に長けた者などがいたりするため、もし相談したいことがあれば動物園に連絡いただければお手伝いすることも可能であることを、自治体の方にもご承知おきいただきたい。

○ 浅枝座長

外来種について気になっていることが一点ある。例えばハクビシンやアライグマによる被害が問題になっていることから駆除をしないといけないが、動物を殺すということであるため、子ども達はどのような感情を持っているのか。

○ 高木委員

アライグマについては、実際に子どもたちの目に触れる機会は多くないため、実感として分からないのではないかと思う。ミドリガメやアメリカザリガニが法規制の対象になったことで、駆除することを子ども達がどのように捉えているのか、非常に話題になっている部分であるが、そこは子ども達がどういった教育を受けていくかによって変わるのではないか。

動物園の立場であると、命は大事であるが、命は尽きるものであり、そして生まれてくるものでもある。その命の循環という考えた方が、生物にとっても環境にとっても自然なことであるが、今の愛護的な教育を受けた子ども達にとっては外来生物の駆除は非常に矛盾を抱えるのではないかと個人的には考えている。

○ 浅枝座長

アライグマやミドリガメにしても、彼らが望んで来た訳ではなく、人間が持ち込んだものである。ある意味、我々に行いの結果、我々が彼らを殺さなくてはいけない状

況となった。そういったところを、どのように説明すればよいか。

○ 高木委員

要は外来生物に責任はない。彼らは何も悪いことはしておらず、持ち込んでしまった人間の責任について、難しいところではあるが、この問題点をしっかり伝えていく必要がある。

○ 浅枝座長

例えばコウノトリが絶滅危惧種をいっぱい食べて困っている、というような話もある。そういったセンシティブな話題についても議題に入れて、みんなで考えていく姿勢も必要になってきているのではないかと感じている。

(2) 地域振興・経済活性化に関する重点取り組みプランについて

○ 事務局

【資料2】 アクションプランの取り組み推進について（令和5年度活動計画案）のうち、「地域振興・経済活性化に関するプランの本年度計画」について説明。

○ 浅枝座長

コロナ禍が終息していくと共にインバウンドが増えて、富士山では行列ができていく状況であるとテレビで報道されていた。ただ、非常に日本的風景を持つ荒川流域にはなかなかインバウンドが訪れない。短期的な対策は難しいと思うが、長期的な視野でインバウンドを迎える方法を考えるのもよいのではないか。

私は海外に行く機会が多くあるが、ホテル代の高い都心には宿泊していない。特にヨーロッパは都心から離れたところに宿泊代が安価なホテルが多くあり、シャトルバスの運用もしていることから、空港や都心への送迎をしてくれる。そのため郊外のホテルに宿泊する方が圧倒的によい。

ヨーロッパの方は特に自然が好きのため、自然豊かな荒川流域は大きな資源になると考えられる。その資源を活かしていく方法を考えていく必要があるのではないか。

○ 高木委員

荒川流域の5市町はお米よりも付加価値が高い、美味しい果物が多く生産されている。こういった特産品もエコツアーに盛り込み宣伝していくのが現実的かと考える。これからの季節は特に梨が流通されるが、最近では梨農家が減っている背景があることから、鴻巣市や北本市で生産される梨の付加価値が高まっているのではないか。インバウンドの集客だけでなく、東京からの集客も増やすためにこのような魅力もアピールしていくことが一番よいのではないか。

○ 浅枝座長

実は埼玉県は日本酒で有名である。海外のワインツアーのように、日本酒の酒造の

見学や試飲するツアーを実施するなど、特産を活かしていく方法はないか。流域共通マップに各地の特産に関する情報をまとめているが、マップの活用方法についても考える必要がある。

○ 事務局

アクションプラン⑤の説明の中で紹介させていただいたが、皆様からいただいた情報を集約して広報の展開をしていく取り組みを進めているため、引き続き皆様にご協力いただければ幸いである。

○ 鴻巣市

鴻巣市の近況について情報共有させていただくと、鴻巣市の下水道課の事業であるマンホールカードに新規デザインが追加され、その中でコウノトリをデザインしたカードについては、天空の里を利用した来訪者を対象に7月28日（金）から配布を開始したところである。

最近の土曜・日曜の来館者数は20～30名程度が平均的であったが、このマンホールカードの配布が開始された初日は、約500名、その翌日の土曜日にも約500名来館された。また、来館されたのは、ほぼ県外の方であった。何かのヒントになるかと思い、情報共有させていただいた。

○ 浅枝座長

子ども達が集めたくなるものを取り入れるということも有効かと思われる。

鳥類の祖先は恐竜だといわれており、恐竜に興味のある子どもに説明すると、コウノトリにも興味を示してくれるのではないか。コウノトリも重要だが、話題を派生させて多様な角度から興味を引いていくのもよいのではないか。

○ 北本市

鴻巣市さんからマンホールカードについての紹介があったが、私も同じようなことを考えている。推進協議会では缶バッジを作っているが、缶バッジだけではなくカードにしたら面白いのではないか。また、フリー素材にして活用してもらおうようにすると、ミドリシジミやサクラソウなど、他の市町の特徴にも興味を持ってもらえるのではないか。

○ 浅枝座長

カードはカルタなどにする例もある。ちょっとしたアイデアを加えると更によいのではないか。

○ 事務局

北本市さんからもご意見があったように、各自治体の特色が出たイラスト素材があるため、缶バッジ以外での活用も考えたい。

北本市さんと鴻巣市さんからいただいたご意見の発展形として、例えばスタンプラリーで流域周遊を促す取り組みもよいかと考える。鴻巣市の天空の里に訪れた方がスタンプを押せることを知り、そこで他の市町の拠点でもスタンプを集めるとカード等の特典がもらえることを知り、荒川を周遊するきっかけとなる、というような形など。事務局でも配布方法について検討していたため、参考にしたい。

○ 荒川流域ネットワーク

先月、4年ぶりに新潟の佐渡で実施している田んぼアートを見学してきた。その田んぼアートは、世田谷区の小学校の生徒が書いた絵をもとに、佐渡の農家の方が制作しており、たくさんの方が見学しに来ていた。

佐渡には600羽近くのトキが野生で飛んでおり、見学翌日の朝も70羽ほどを確認した。

昔は田んぼの管理は大変だったが、今は自動で草取りなどをする機械が流行っている。鴻巣市でも機械をうまく利用しつつ、生きものが生きられる環境を作っていけるとよいのではないかな。

○ 吉見町

先日、吉見町で親子自然観察会を開催し、天空の里のチラシや推進協議会の缶バッジを約40名に配布したが、参加した子どもから「既に同じデザインの缶バッジを持っているから他のデザインが欲しい」という意見があった。現在の缶バッジデザインが5種類あることを知らない子もいるため、これをコンプリートするのを一つの目的とした企画を立てるのも面白いかなと思う。先ほどからの話のように、カードなどグッズ展開するのもよい。そしてそれをきっかけに、5市町を周遊する企画が生まれると面白いかなと思う。

また、町の事業ではないが、八丁湖の近くに里山を持つ農家さんが、山林の下草刈りをして、そこにツリーハウスを建てるという試みを10年くらい前から続けている。その活動は月1回であるが、都心から若い女性など毎回20～30名ほど参加される。その参加者から話を聞いてみると、都心はコンクリートばかりのため、下草刈りの体験や自然に触れあえる機会は本当に貴重で、時間とお金を払ってでも参加したいものであると意見があった。

そういった里山の再生のような取り組みを町としても生み出し、地域と協働して環境を作っていくことで、都市住民との交流が生まれてくるのではないかな、というような気配を感じている。

○ 浅枝座長

吉見町も大きなポテンシャルを持っており、多くの観光資源があることから来訪者が訪れるはずと考えられるが、なぜか認知度が低い。

○ 吉見町

イチゴの時期は来訪者がよく来てくれているが、そちらは農政・観光関連の担当である。おっしゃる通り、吉見町にはポテンシャルを秘めていると個人的に考えているが、環境の担当が出来ることとして、里山の活用であったり、推進協議会や流域自治体との連携などを進めているところである。環境の枠組みは広いため、その中でできることは引き続き取り組んでいきたいと考えている。

○ 高木委員

ポータルサイトについて、基本的には関係者間のリアルタイムの情報共有という形での運用を検討しているとあるが、これを一部だけでも一般向けに公開することは考えているのか。

○ 事務局

現在は関係者間に限定した公開であるが、ご意見があれば一般公開に向けた検討を進めていきたいと考えている。

○ 高木委員

流域共通マップにある特産物・観光スポット情報はこちらだけで提供するのではなく、一般の方も情報提供していただくことで、双方から面白い情報が集まり、サイトの価値が上がっていくような運用ができるとよい。また、流域共通マップには生きものの生息地などの情報も確認できるものを作っていたらよい。

○ 事務局

いただいたご意見も踏まえ、流域共通マップの一般公開に向けた検討を進めていく。

○ 浅枝座長

観光スポットに英語の情報を加えれば、インバウンドが来訪するようになるのではないか。現状それがないから富士山などに向かってしまう。簡易的でもよいので、英語の説明追加を検討していただきたい。

○ 事務局

ポータルサイトや流域共通マップについて、どのように運用するか模索している中で、やはり一般公開するには検討が必要となる情報も含まれることから、精査をしているところである。そのうえで一般公開できるものは積極的に公開していきたいと考えている。

流域共通マップの英語版については、事務方の作業量なども考慮する必要があるため、今後の検討とさせていただきたい。

3. その他（連絡事項等）

○ 高木委員

今年の夏は茨城県の神栖市で三ペアのコウノトリの繁殖が成功するなど、関東近辺でコウノトリが増えており、荒川流域外がコウノトリのメッカになっていきそうな状況である。コウノトリ・トキをシンボルとして挙げている取り組みであることも踏まえ、荒川に限った話ではないが、野生のコウノトリの状況の変化に対し、我々もスピードアップして対応していかなければいけないと考えているところである。

○ 浅枝座長

コウノトリに限らず、他の動植物などを含め、全体で進めていけるとよい。

○ 日橋委員

埼玉県内にはコウノトリの巣塔はあるのか？

○ 高木委員

埼玉県に巣塔は無い。自然木で対応できないかという意見もあり、この問題については調整が難しく、うまく進んでいないのではないだろうか。長らく国内では人工物以外でヒナが育った例はないため、現実的には必要なのではないかと考えている。

○ 事務局

本日ご意見いただいたポータルサイトの一般公開や、広報ツールを活用して集客する際には、ただ人を集めるだけではなく、環境を知っていただくことや、除草作業に協力いただくなど、目的が明確になっているかを確認しながら進めていく。また、今後も皆様方のお知恵を拝借しながら、各市町の指標種イラスト等を活用した地域活性化への取り組み等を検討していく。個別にご相談させていただく機会もあるかと思うが、ご協力賜りたい。

以 上